『明るい未来のために』

「もしもばぁばの運転で誰かの命が失われたりしたら、みんなが不幸になっちゃうじゃんね。・・・なら返納するのが正解なのかな。」

大好きな祖母がしみじみと言った言葉に私は衝撃を受けた。

私にとって祖母が運転をしている光景は当たり前の光景であった。私が小さな頃から、祖母は車で様々な場所に私を連れて行ってくれたり、私が少年野球をしていたときに送り迎えを毎日のようにしてくれていた。そんな祖母だが、この数年、足を悪くしてしまったことから運転に対して不安を抱いていた。祖母はこれまで何回も免許を返納しようか考えていた。しかし、「車の運転ができない」という現実に対してのショック、便利な移動手段を失ってしまったらどんな生活になってしまうのだろうという不安から、中々決断に至ることができなかったそうだ。しかし、自分の今後の生活の不安よりも、事故を起こしてしまうことへの不安、加害者になることへの不安の方が日々、強くなっていったのだろう。

そして、祖母は免許の返納を決断したのであった。

祖母の話を聞いていると、私は高齢者による、ある事故を思い出した。

2019年、池袋で起こった交通事故。高齢の男性の車がアクセルとブレーキを踏み間違えたことによって暴走し、交差点に侵入、歩行者と自転車を次々にはねた。この事故によって母子２人が命を落とした。当時娘はまだ3歳。たった1回の踏み間違えが、かけがえのない二人の命を奪ってしまった。この事実に対して私はとても胸が痛くなった。どうしたらこのような悲劇が生まれずに済んだのか、、、

　現在の自動車は事故を防ぐために様々な工夫が施されている。しかし、車に乗って運転するのはAIでなく、自分だ。車というものはとても便利だが、使い方を誤ってしまうと簡単に大切な命を奪うことになる。
車を運転する大人には、このことを念頭に置き、運転してほしい。高齢の方々にも、このことを伝えたい。自分はまだ運転できる、自分は運転がうまいから、、、と思っていないだろうか。年齢を重ねるとどうしても認知能力や瞬発的な判断能力が低下してしまう。知らず知らずのうちに事故を起こしやすくなっているかもしれない。そのために免許返納という制度があると私は考える。免許を返納するのが正解というわけではない。だが自分の体と向き合い、安全な運転ができるのかどうか考えてほしい。すべて他人事ではない、自分事なのだ。
　私達子供もそうだ。決して他人事ではない。もし自分の祖母、祖父が事故を起こしてしまったらどうだろうか。私だったらとても悲しい気持ちになるだろう。愛する人のつらい顔は見たくない。だから、私達が気にかけてあげることが大事だと思う。私の祖母も、免許の返納に不安が大きかったが、自分だけでなく、自分に関わる大切な家族のことを考え、免許の返納を決断できた。サポートしてくれる家族がいるという安心感もあったと思う。私達にできることはほんの僅かかもしれない。だが、その僅かな心が、大きな安心に変わるのではないだろうか。
　私は日々の通学や遊びに行くときに自転車を使っているが、これも同じだと思う。日常的に使っているからこその気の緩みが交通事故を生み出すのだと思う。その事故で私は命を落としてしまうかもしれない。もしくは誰かの命を奪ってしまうかもしれない。。車より小さな自転車でも人の命を失うことがある。だから私は他人事でなく自分事として事故を起こさないよ

う、努力しようと思う。また、それを周りへと広げていきたい。

　子供も、高齢者も、安全に自転車や自動車を使用し、事故のない安心して過ごせる明るい未来になるよう、私は願う。